



平成20年10月22日



第13回マキシマラソン* in Japan & 第2回 Atoms for Peace 賞授与式

- 主催：世界原子力従事者評議会
(World Council of Nuclear Workers: WONUC)
特定非営利活動法人持続的平和研究所
(International Institute for Sustainable Peace: IISP)
- 共催：(社)日本原子力学会
- 協賛：(財)エネルギー総合工学研究所、(社)日本原子力産業協会、
(財)日本原子力文化振興財団、(財)発電設備技術検査協会
- 後援：京都府、京都市、南丹市、京都商工会議所、福井県、高浜町、おおい町、福井商工会議所、(財)若狭湾エネルギー研究センター、エネルギー政策研究所、四条大宮商店街振興組合

開催日時：平成20年11月3日(月)～11月5日(水)

開催場所：京都市および福井県高浜町周

URL：<http://www.sustainablepeace.jp/第13回MM/第13回MM-Japan.html>

『西の鯖街道』を舞台に農商工連携の新たな試み！
世界から集まった原子力ランナー100人が
晩秋の都大路から西の鯖街道を若狭高浜町に走る！
**原子力平和利用の願いをこめたメッセージを高浜の仲間そして
未来をになう学童に届ける！！**

- 11月3日 第2回「原子力平和賞」授与式 (17:30～)
会場：アークホテル京都(四条大宮)
中曽根元総理来京
山田啓二知事来賓祝辞(交渉中)
- 11月4日 マキシマラソン 6:45 四条大宮スタート
スタート会場：四条大宮駅前
スタート号砲：門川大作京都市長
京都～西の鯖街道～高浜
- 11月5日 高浜小学校をランナー訪問 (8:30)
高浜町役場訪問 (9:30)
MC: モーリー・ロバートソン

補足資料

もくじ

1. 開催趣旨	3
2. 開催要領	4
3. 組織委員会等名簿	6
4. プログラム	
原子力平和賞授与式&マキシマラソン前夜祭	7
マキシマラソンおよび小学校訪問ほか	8
5. 原子力平和賞とは？	9

* マキシマラソンはその第一回が1966年にパリーブリュッセル間約300kmで行われました。マラソンと称してはいますが、競技マラソンではありません。全行程を10km以下の区間に分割し、各区間を10-20名程度が交代で走ります。一般道を走りますが、信号は守り交通は遮断しません。駅伝形式のジョギングといった様式です。

1. 開催趣旨

マキシマラソンは、1996年に世界原子力従事者評議会が第一回をパリーブリュッセル間で開催し、毎年各国持ち回りで開催しているスポーツ行事です。

その目的は、原子力に従事する作業員(Workers)および科学者・技術者の国際交流と情報交換、ならびに日本の原子力立地地域との交流を通じた国際的な文化醸成とその発信にあります。原子力産業では、実際の現場でものづくりや運転保守に直に携わっているのは作業従事者ですが、彼らには国際交流の機会はずしも多くありません。参加し易いマラソンイベントを通じて、言葉の壁を超えて場所と時間を共有することで、相互交流をはかることができます。つまり、国や日頃の立場を超えた文化の醸成の機会を提供することになると思います。

日本は原子力の先進国であり、広島や長崎の被爆のつらい経験をこえて平和利用を推進してきました。京都や福井は日本の伝統文化や精神が息づいている世界に誇れる歴史ある地域です。京都は京都議定書の生まれた地です。その京都を中心に、マラソンイベントを通じて、地球に優しい原子力の平和利用の大切さを世界に向けて発信すれば、日本と各国の架け橋になると思います。

福井県は西の原子力銀座ともいわれ、大阪万博のときから今日まで約40年に亘って、原子力発電を誘致することで日本の経済産業基盤を支えてきました。また、柏崎・刈羽発電所の復旧の現状を世界にむけて発信できると考えます。

付記：WONUCは世界の36カ国の約180万人を結ぶネットワーク型組織で、IAEAの公認するNGOです。<http://www.wonuc.org/>

IISPは、原子力平和利用の推進と核兵器の廃絶を目的とするNPOです。

<http://www.sustainablepeace.jp/>

日本におけるマキシマラソンの開催は、洞爺湖七夕サミット後の取組みを世界に向けて発信する機会でもあります。日本は二酸化炭素の排出量の削減において実務的に世界のリーダーシップをとることが望まれます。そこでは、自然エネルギーの開発、省エネルギー、そして二酸化炭素を殆ど排出しない原子力の役割が非常に重要になってきます。特に、自然エネルギーと原子力はセットで考える必要がある。

原子力発電を実務的に担う従事者、とりわけ各国の原子力発電の運転・保守業務を担う人々は安全確保ならびに原子力セキュリティの要です。諸外国の原子力従事者が日本の原子力発電所を訪れることには大きな意義があります。まずは、その発電現場を見て、その従事者や地元の人々と交流し、意識と価値を共有する機会が持てます。そのことは、原子力文化の底上げに繋がる可能性があります。

各国の参加者は日本での開催を長年望んできました。そして、今回は、高浜原子力発電所に加えて、被災した柏崎刈羽発電所の現状を知りたいことを強く望んでいます。

これによって、過去40年原子力発電に邁進してきた日本の活力の最前線を世界に示すとともに、従来から積重ねられてきた原子力の建設運転保守の実績、ノウハウそして知識(ナレッジ)を世界に広く共有する端緒にしたいと思っています。このような事実とモチベーションを国内そして他国の原子力従事者と共有することが、これからの世界の原子力開発にとって大きな意義を持ちうると思います。つまり日本の原子力のCSRが国の枠を超えて、グローバルな社会的責任、つまりGSRへと展開するきっかけにできると考えます。

これは、日本が原子力や自然エネルギーの推進をもって、G8の精神に則り、サステイナブルな世界を実現していく上で、範を示すよい機会になると思います。

2. 開催要領

1) プログラム (詳細はP.7以降参照)

11月3日 各国参加者京都に集合、夕刻、原子力平和賞授与式、その後レセプション

11月4日 マキシマラソン (日の出06:19)

06:45 四条大宮をスタートし、二条城まで走る (集合写真)

08:00 引き続き立命館大学まで走る (ここで二手に分岐)

08:30まで 立命館大学出発

08:30-17:30 (100km、約9時間) マキシマラソン

西の鯖街道 (四条大宮→国道162号→西の鯖街道→愛宕山→丹南市美山→高浜→高浜原子力発電所→高浜町城山公園) を交代で走ります。

同町宿泊 (交流会)

11月5日 (予定) テクニカル・ツアーを予定 (詳細は続報)

同日京都帰着(バス)

(11月7日 ポスト・マキシマラソン・シンポジウム[東京])

2) 開催国と日本の参加実績

第1回フランス→ベルギー(1996, 25名)、第2回フランス→ベルギー(1997, 17名)、第3回ハンガリー→スロバキア→チェコ→オーストリア(1998, 不参加)、第4回ルーマニア(1999, 不参加)、第5回ドイツ(2000, 不参加)、第6回ロシア(2001, 4名)、第7回スウェーデン(2002, 8名)、第9回ブルガリア(2004, 不参加)、第10回ロシア(2005, 不参加)、第11回リトアニア(2006, 不参加)、第12回キューバ(2007, 2名)

3) 組織委員会/実行委員会委員

本マキシマラソンの実施に当っては、組織委員会を設置して計画・立案し、詳細実施計画は、下部組織として実行委員会を設置し、作成し、その実行に当る。

(名簿参照、P,5)

4) 参加予定国

フランス*、スイス*、スウェーデン、スペイン*、ハンガリー*、ロシアなど、韓国、日本 (外国約60名[*エントリー済み]、国内約20名)

5) 参加資格

原子力に関わる人々のみならず一般の方々も参加できます。
マラソンコースは10区間以上(1km-10km)に分割され、好きな区間をジョギング感覚で走れます。脱落者はバスがピックアップします。

6) 参加登録費

4万円 (但し、11/3,4のみの参加は3万円)

* 参加登録費には宿泊費含まれません。

7) 参加登録費振込先

- ・三菱東京UFJ銀行 (0005)
- ・自由が丘駅前支店 (110)
- ・普通預金口座番号: 0006350
- ・口座名義 特定非営利活動法人持続的平和研究所

8) 参加申し込み期限

第二次募集締め切り (申し込み順に受け付けます)

平成20年10月15日

※締め切り後の申し込みは、下記マキシマラソン実行事務局にご相談ください。

9) 問い合わせ先

〒105-0004

東京都港区新橋4-29-6 寺田ビル7F

(株)国際広報企画内 マキシマラソン実行事務局

担当: 副島 (そえじま) 忠邦

電話: 03-5405-1844 fax: 03-5405-1846

e-mail: tsoejima@iips.co.jp

10) 案内ホームページ

最新情報、コース案内等は下記URLをご覧ください。

<http://www.sustainablepeace.jp/第13回MM/第13回MM-Japan.html>

【補足説明】

1. World Council of Nuclear Workers (WONUC) 世界原子力従事者評議会

1996年設立 (President: Andre Maisseu) 本部はフランスパリ。世界36カ国に支部組織をもつIAEA公認のNGO。学術的活動 (学術誌の編集発行および国際会議の開催) および原子力従事者 (主に、原子力発電所の運転保守および放射線発生装置の運転保守に従事するワーカー) 間の交流を通じた情報発信と文化の醸成を目的とする。

主な加盟国は、フランス、ドイツ、ベルギー、オランダ、スペイン、スイス、スウェーデン、ロシア、リトアニア、ブラジル、インド、パキスタン、中国、韓国、ベトナム、フィリピン、日本など。

2. International Institute for Sustainable Peace (IISP) 持続的平和研究所

2007年設立の日本の非営利特定活動法人 (理事長: 澤田哲生) 設立の目的は、原子力平和利用の推進・核不拡散・核兵器廃絶の鼎立、発展途上国における原子力平和利用に関わる研究への援助など。

3. 組織委員会等名簿

第13回マキシマラソン組織構成

この催しには下記の方々より個人的なご賛同・ご支援を頂いております。
中曽根康弘（元総理大臣）、加納時男（参議院議院）、松浦祥次郎（前原子力安全委員長）、石川迪夫（原子力技術協会最高顧問）、近藤駿介（東京大学名誉教授）、成合英樹（筑波大学名誉教授）

1. 組織委員会（敬称略、◎委員長、○事務局）
 - 石田哲雄（四条大宮商店街振興組合理事長）
 - 入江一友（東京大学国際原子力専攻客員教授）
 - 笹岡好和（電力総連名誉顧問）
 - ◎佐々木宜彦（財）発電設備技術検査協会理事長）
 - 澤田哲生（特定非営利活動法人持続的平和研究所理事長）
 - 野瀬 豊（高浜町町長）
 - 服部拓也（社）日本原子力産業協会理事長）
 - 松井一秋（財）エネルギー総合工学研究所理事）
 - 横手光洋（財）日本原子力文化振興財団専務理事）

2. 実行委員会（敬称略、◎事務局長、○事務局補佐）
 - 栗野明雄（福井県原子力平和利用協議会）
 - 菊池 宏（MaxiMarathon Japan Network[MJN]）
 - 楠野貞夫（財）エネルギー総合工学研究所）
 - ◎澤田哲生（特定非営利活動法人持続的平和研究所理事長）
 - 城近義行（MaxiMarathon Japan Network[MJN]）
 - 副島忠邦（株）国際広報企画代表取締役）
 - 高浜町

3. アドバイザー（敬称略）
 - 高橋泰三（経産省資源エネルギー庁原子力政策課長）

4. プログラム

第2回 Atoms for Peace 賞授与式

および

第13回マキシマラソン in Japan-情報交換会議&前夜祭-



日時

平成20年11月3日(月・祝), 15:00-21:00

会場

アークホテル2階宴会場 (約200名収容)

〒604-8811 京都市中京区四条通り大宮西入

TEL: 075-812-1111 FAX: 075-822-6201

<http://www.ark-kyoto.net/>

プログラム

第一部: マキシマラソン情報交換会議

14:00-

マキシマラソン参加登録受付

15:00-17:00

マキシマラソン参加者の情報交換会議

15:00 - 15:10 開会挨拶 ((財)発電技検理事長・佐々木宜彦)

15:10 - 15:20 第13回マキシマラソンにあたって (WONUC 総裁・アンドレ・マイシュー)

15:20 - 15:30 大会概要 (IISP 理事長・澤田哲生)

15:30 - 16:40 原子力発電と作業者の状況報告

フランス、スイス、スペイン、リトアニア、ロシア、ハンガリー、韓国各代表 (各10分 x 7 [1h10m])

16:40 - 17:00 意見交換

17:00- 17:30 (休憩〜コーヒータイム〜)

第二部: 第2回 Atoms for Peace 賞授与式

17:30-17:35 授与式開会の辞

17:35-18:05 第二回原子力平和賞の授与

中曽根先生お言葉

およびメッセージ受け渡し

(原子力研究開発および高浜町にむけて)

18:05-18:15 お祝いの言葉

来賓: 山田啓二京都府知事(交渉中)

18:15-18:35 記念講演

神田啓治京都大学名誉教授

第三部: マキシマラソン前夜祭

19:00-21:00

会場 養老の瀧 (アークホテルから徒歩5分)

<http://www.yo-ro.com/info.htm>

19:00- 開会

-19:05 来賓祝辞 (5分) 山田知事 (交渉中)

19:05-19:15 中曽根先生のお言葉と乾杯 (10分)

第13回マキシマラソン in Japan

タイムスケジュール（変更の可能性あり）

11月4日

- 6：45- マキシマラソンスタート（四条大宮駅前広場）
門川京都市長テープカット&号砲
- 7：15- 二条城前集結
- 8：00 立命館大学到着目標時間
- 8：30- 立命館大学をバスで出発し、周山街道へ向かう
- 9：30- 京見峠（茶屋）
- 11：00- 京北町 羽田酒造にて交流
- 13：00- 美山町 かやぶきの里

-----ここで2つに分流

チームA：名田庄から県道16号を石山越えて高浜町へ（10-15名）

チームB：バスで高浜発電所に移動

チームB

- 15：00- 高浜発電所にてメッセージ読み上げ／手渡し
- 15：40- 発電所近くの脇坂公園から城山公園（ゴール）に向けてファイナルラン
- 16：30 ゴール（城山公園）
- ☆☆☆☆☆☆☆☆

チームA

- 16：30頃 城山公園にゴール

ゴールでは地元中高生のブラスバンドが迎える

ゴール式典

- 19：00- レセプション

来賓：西川福井県知事、野瀬高浜町長ほか

11月5日

- 8：00 「城山荘」玄関集合
- 8：30- 高浜小学校訪問 ランナーと小学生の交流
- 9：30- 高浜町役場訪問 町長との会談
- 10：00- “ドコイコ・ナニシヨミニツアー” および発電所テクニカルツアー

- 14：00- 京都への帰途へ

5. 原子力平和賞とは？

1st Atoms for Peace 賞 2008 I A E A 事 務 局 長 エ ル バ ラ ダ イ 氏 に

原子力の平和利用の推進と核兵器廃絶の促進を目指す特定非営利法人「持続的平和研究所（The Institute for Sustainable Peace: IISP、代表・澤田哲生〔東京工業大学原子炉工学研究所〕）」と世界35カ国の原子力施設や放射線利用施設などで働く従事者と学者などで構成される「世界原子力従事者評議会（World Council of Nuclear Workers: WONUC、代表・Andre Maisseu）」は、「平和のための原子力賞（Atoms for Peace Prize）」を今年から創設した。この賞は、原子力の平和利用の推進に大きな功績があった個人・団体に贈られるものであり、同時に核廃絶への貢献があることが望ましいとされている。

第一回受賞者に、2005年のノーベル平和賞受賞者で、国際原子力機関（IAEA）事務局長のエルバラダイ氏が選ばれた。

IAEAの第50回年次総会が開催されていた9月17日に、ウィーンのIAEA本部で授与式が行われた（写真・IISP提供、撮影：谷津祥一）。エルバラダイ氏には、広島市の平和祈念の象徴である折り紙の鶴にハトとオリーブの枝をあしらったメダルと盾、賞金100万円が贈られた。メダルのデザインはミヤケマイ氏によって創作された。

エルバラダイ氏は、「原子力エネルギーは貧困や紛争解決のためのエンジンである。同時に、私たちは核兵器の脅威から解放された世界を望んでいる」と、受賞の喜びを込めて述べた。

※ IISP については下記 URL を参照下さい。

➤ <http://www.sustainablepeace.jp/>



第一回 Atoms for Peace 賞授与（於、国際原子力機関本部[ウィーン]）

2nd Atoms for Peace 賞 2008 中曽根康弘元総理大臣

Atoms for Peace 賞は2007年に NPO 法人・持続的平和研究所 (International Institute for Sustainable Peace [IISP]、代表澤田哲生) および NGO・世界原子力従事者評議会 (World Council of Nuclear Workers [WONUC]、代表アンドレ・マイシュー) によって創設された賞です。この賞は、原子力の平和利用に著しい貢献があった個人または団体を顕彰するものです。また、同時に核不拡散ないしは核保有国の核兵器の削減および廃絶になんらかの貢献または強い意思表示をしていることも付带的に望まれます。

第一回目の Atoms for Peace 賞は、国際原子力機関 (IAEA) のモハメド・エルバラダイ事務局長に授与されました。

本年、第二回目の受賞者として、Atoms for Peace 賞選考委員会は、大勲位中曽根康弘元首相を全会一致で選出いたしました。これは、言うまでもなく日本の原子力平和利用の創成期においてその礎を築き、その後も国家の中枢にあって常に原子力平和利用を推進されてきた中曽根先生の熱意と実績を顕彰するものであります。

～☆～☆～☆～☆～☆～☆～☆～☆～☆～☆～☆～☆～☆～

第二回 Atoms for Peace 賞選考委員会委員

- 委員長 遠藤哲也 ((財)日本国際問題研究所顧問、元原子力委員会委員長代理、IAEA 大使ほか)
委員 植松邦彦 ((社)日本原子力産業協会担当役、元動燃事業団副理事長、OECD/NEA 事務局長)
委員 下山俊次 (日本原子力発電株式会社参与)
委員 横手光洋 ((財)日本原子力文化振興財団専務理事)
委員 有富正憲 (東京工業大学原子炉工学研究所所長)
委員 アンドレ・マイシュー (世界原子力従事者評議会総裁)
委員 澤田哲生 (持続的平和研究所代表理事/東京工業大学原子炉研)
事務局 副島忠邦 (株式会社国際広報企画社長)
アドバイザー 西原 正 ((財)平和・安全保障研究所)
アドバイザー ハンス・ファン・ヒンケル (前国連大学学長)

【補足】 持続的平和研究所 (International Institute for Sustainable Peace [IISP]) は2007年に内閣府に申請・承認された NPO 法人です。
世界原子力従事者評議会 (World Council of Nuclear Workers [WONUC]) は国際原子力機関 (IAEA) の公認する NGO です。1996年に創設され、世界36カ国に支部組織があり、180万人を結ぶネットワーク組織です。

<http://www.wonuc.org/>

※ 2007年の Atoms for Peace Prize に関する情報

➤ <http://www.iaea.org/NewsCenter/News/2007/afpprize.html>

澤田哲生
〒152-8550
目黒区大岡山 2-12-1 N1-5
東京工業大学 原子炉工学研究所
TEL/FAX: 03-5734-3062
E-mail: tetsuo@nr.titech.ac.jp
携帯電話: 09084637417



「Atoms for Peace 賞」のメダル（レプリカ）とともに
メダル授与の説明に中曽根事務所を訪問した際に撮影（2008.06.12）「
左より、西原正（平和・安全保障研究所理事長）、中曽根元首相、澤田、副島（IISP 事務局）」